Vol.007

梅島ふるうつ屋

月の養蜂だより 7月号

今月のひとこと

梅雨も明け本格的な夏がやってきました。人にとっても暑さが厳しい季節、実はミツバチにとっても夏はとても過酷な時期です。巣箱の中が暑くなりすぎないように羽で風を送り続けたり、水を運んできたりと、毎日みんなで力を合わせて暑さと戦っています。

今月のミツバチ：養蜂の話

この時期は花が少なくなるため、ミツバチたちは十分な蜜を集められないことがあります。
そのため、巣の中の貯蜜量を確認しながら、必要に応じて砂糖水を与える「給餌」を行います。
自然の力だけでは足りず、人が少しだけ手を貸してあげることも大切な仕事です。

蜂蜜のプチ知識

蜂蜜の減る時期

昨年まで、この時期まで蜂蜜を採取していました。ですが、夏は花が少なくなり始める時期でもあり、ミツバチにとっては決して余裕のある季節ではありません。来年からは夏の蜂蜜は採らず、ミツバチに残してあげようと考えています。

季節ごとの管理

貯蜜量の確認、必要に応じた給餌、暑さ対策、ダニの発生状況の確認、来年に向けた女王蜂づくりや群の管理、こうした作業を元気な状態で秋、そして冬を迎えられるよう管理しています。

ちょっとだけ環境の話

近年は猛暑や異常気象の影響もあり、植物の開花時期が変わったり、蜜が十分に出なくなったりすることも増えてきました。元気なミツバチを守ることは、暮らしや農作物を守ることにも
つながっています。

今月の一枚

餌不足で巣作りが止まっている様子です。
この状態ではすぐに給餌しなくてはなりません



養蜂家のひとりごと

すでに来年の春へ向けた準備が始っています。
もちろん、蜂蜜の販売がなくても、餌代や資材代などの維持費はかかり続けます。
それでも、来年また皆さんに「おいしい」と言っていただける蜂蜜を届けるために
一つひとつ積み重ねています。

ここまで読んでくださり、ありがとうございます。
ミツバチや蜂蜜、環境などについて、少しでも
身近に感じてもらえたら嬉しいです。
InstagramやTikTokにて365日で復活する養蜂家として
発信もしています。